

第 20 回日本遺伝子治療学会-理事会「議事録」

日時：平成 26 年 8 月 6 日（水）09：00～09：50

場所：東京慈恵会医科大学（大学 1 号館）17 階 CD 会議室

出席者：斎藤 泉会長

金田安史理事長、小澤敬也副理事長、谷憲三朗副理事長
遠藤文夫、大橋十也、奥山虎之、小野寺雅史、久米晃啓、
公文裕巳、島田 隆、田川雅敏、藤堂具紀、藤原俊義、
三谷幸之介、森下竜一、米満吉和

欠席者：田原秀晃、那須保友、中内啓光、水口裕之、若林俊彦

監 事：青木一教、岡田尚巳

JSGT 事務局本部 出席：浅野茂隆事務局長、衛藤義勝副事務局長

欠席：新津洋司郎副事務局長

（報告事項）

1. 第 19 回 JSGT 年次学術集会終了の報告が藤原俊義会長よりされた。
2. 事務局報告：谷憲三朗総務理事より以下、報告された。（報告書 参照）
 - 会員動態、一般収支の部、予算の部、
 - 収支報告（自・平成 25 年 4 月 1 日 ～ 至・平成 26 年 3 月 31 日まで）
 - ・第 19 期・平成 25 年度 JSGT 事務局・収支報告 *含・学会誌 JGM 誌-2012～2013 年度
 - ・第 19 回日本遺伝子治療学会学術集会・収支決算報告
2. JSGT 理事長報告（金田安史理事長より報告された。）
 - 1) ESGCT/ASGCT/CSGCT/JSGT meeting（12:30～13:25, May 23, 2014, Marriott Hotel）
 - 出席者：Dean, M., Malech, H., Sadelain, M., Sukup, A., Naldini, L., Watson, R., Kaneda, Y., Liang-Min, Guangping Gao
 - 次期 ASGCT 会長の Harry Malech から、2015～16 年に International Stem Cell Meeting（仮称）を開催したいとの提案があった。今後内容など議論して進めていく予定。
 - *金田より、遺伝子治療学会が initiative をとるためには、gene-modified stem cell のようなタイトルと内容が必要、と申し入れた。
 - 2) ESGCT/ASGCT で 2012 年より始めた Clinical trial training course を今後も続けるとの提案が、DR. Malech よりあった。*金田より、International meeting for regulatory science のようなセッションを設け、各地域の FDA 関連組織の関係者を招いて、遺伝子治療の治験を行っていくための障壁についての認識を持ち、harmonization を図るべき、と申し入れた。
 - 3) CSGCT より、中国からの参加者の障壁はビザを取るのに 8 週間もかかることであり、ASGCT からの働きかけで容易に参加できるようにしてほしい、との希望が出された。ポスター発表が認められているという理由をつけてはどうかという提案があった。EU はビザを取るのが容易なので ESGCT に参加したら、という提案が Naldini よりあった。
 - 4) CSGCT も最近是国内の FDA が conservative なので困っていること、遺伝子治療の啓発が必要なことから、ASGCT、ESGCT から有名な演者を招きたいとの申し入れがあった。
 - 5) JSGT からは、Young investigator による international symposium の開催を Malech に個人的に申し入れた。
 - 6) International Committee meeting（12:45～13:30, May 24, 2014, Marriott Hotel）
 - (Gaspar, B., Basner-Tschakarajan, E., Yannaki, E., Janowski, K., Kaneda, Y., 他 2 名)
 - ・今回の International Clinical Trial のセッションの感想を述べ合った；最初は参加者が多かったが、次第に減った。同時に他のセッションもあり競合していたためか？Singapore からの発表は遺伝子治療ではなかったが、アジアで多い癌なので発表は必要であった（座長より）。
 - ・来年も枠を取れそうなので、どのような内容にするか、を話し合った。各ソサエティーからのトップトピックスを紹介してはどうか？Regulatory science の分野も international harmonization の観点から必要である。以上より、2 時間枠を 2 部構成にしてはどうか。
 - ・アジアの学会の様子を問われたので、JSGT, KSGCT, CSGCT, AGTS があるが、Asian society はまだできておらず、JSGT が毎年 Asian session を設け、各地域から発表者を招いている、ことを説明した。今後も窓口は、JSGT（アメリカでは Nori Kasahara）でよいことになった。
 - 7) International session のためのスポンサーを探してほしいという希望が出された。
4. JSGT 関係各賞 受賞者：以下、承認された。
 - 1) 第 19 回日本遺伝子治療学会・学会賞：井上博之
 - 2) 第 19 回日本遺伝子治療学会・JGM 賞：斎藤 智
 - 3) 第 19 回日本遺伝子治療学会・アンジェス賞：岡田浩典、佐々木克己
 - 4) 第 20 回日本遺伝子治療学会・アンジェストラベルグラント 2014：Cho Jung Jong（Korea）
 - *アンジェストラベルグラント受賞回数：2 回まで。
 - 5) 遺伝子治療研究奨励（タカラバイオ賞）2014：三浦慶昭

5. 関連学会及び関連事項の開示/公開の報告があった。(金田安史理事長報告)
(JSGT-HP 周知事項及びその予定, 他 Newsletter-2014 誌上にも情報公開)
- ・ 第 3 回東アジア遺伝子治療推進懇話会 (第 17 回遺伝子治療推進産学懇話会)
日時: 2014 年 6 月 14 日 (土) 13:30-18:00
場所: Suzhou, China
 - ・ The 10th Nikko International Symposium 2013
日時: 2013 年 10 月 17 日 (木) 場所: 自治医科大学 トレーニングセンター
 - ・ 第 4 回国際協力遺伝病遺伝子治療 FORUM
日時: 2014 年 1 月 16 日 (木) 場所: 東京慈恵会医科大学(大学 1 号館)3 階
6. 2013Annual Meeting-News letter April 誌上・案内済み (金田安史理事長報告)
【国内関連学会-今後の予定】
- ・ 第 6 回血液疾患免疫療法研究会学術集会
2014年9月6日 (京都) 会長: 門脇則光先生
 - ・ 日本癌学会第73回学術集会
2014年9月25日~27日 (横浜) 会長: 野田哲生先生
 - ・ 第76回日本血液学会学術集会
2014年10月31日~11月2日 (大阪) 会長: 金倉 譲先生
 - ・ 日本人類遺伝学会 第59回大会
2014年11月19日~22日 (東京) 会長: 徳永勝士先生
 - ・ 第5回国際協力遺伝病遺伝子治療フォーラム
2015 年 1 月 15 日 (東京)
- 【海外関連学会-今後の予定】
- ・ International Society for Cell & Gene Therapy of Cancer (ISCGT2014)
September 25-27, 2014, Amsterdam, The Netherlands
- 《助成金の部》-報告-
- ・ 第 7 回(平成 25 年度)中谷賞候補者の推薦募集要項
提出期限: 2013 年 10 月 15 日 (火)
 - ・ 第 5 回遺伝子治療研究奨励賞(タカラバイオ賞)
提出期限: 2014 年 5 月 30 日 (金)
7. 第 20 回 JSGT 学術集会開催の報告がされた。(斎藤 泉理事報告)
- ・ 会期: 2014 年 8 月 6 日 (水) ~8 日 (金)
 - ・ 会場: 東京慈恵会医科大学 大学 1 号
8. 第 20 回 JSGT 学術集会開催準備の報告がされた。(森下竜一会長報告)
- ・ 会期: 平成 27 年 7 月 24 日 (金) ~26 日 (日)
 - ・ 会場: 大阪府立国際会議場(グランキューブ大阪)大阪
9. JSGT News letter Volume XII Number 1 April 2014、発行の報告があった。(米満吉和理事報告)
(News letter2014 編集担当: 水口裕之理事、米満吉和理事)
10. その他
- ・ カルタヘナ法見直し案に関する報告がされた。(金田理事長)
カルタヘナに関する要望書: 内閣府規制改革会議へホットラインへの提案として提出。
(2014 年 5 月 12 日付・受付確認済み)
 - ・ 東大医科研で、遺伝子・細胞治療センターが設置 された旨、報告された。(小澤副理事長)
(CGCT: Center for Gene & Cell Therapy)

(審議事項)

1. 学会長推薦

- ・ 次次次期会長推薦 (役員名簿:別紙 2)

候補推薦(案):

今年度 9 月末をめどに自薦、他薦もふくめて公募し、理事のメールによる投票で決定して、その候補者の内諾を年内にとる。その候補者を決めてから、次次次次期会長の公募は来年 5 月にやって、7 月の定例理事会で投票し、内諾をとる。他薦者については投票前に内諾を得ておく。

- ・ 次次期会長: 大橋十也理事

大橋十也理事が次次期会長に推薦、承認された。

参考資料: 第 22 回学術集会 (JSGT2016) 大会長候補届出書添付

2. 新評議員推薦・結果、以下の4名が承認された。
 - ・石井亜紀子、中沢洋三、原田 結、平家勇司(計4名)
3. カルタヘナ法からみた日本の遺伝子治療の今後の課題について、引き続き意見交換の上、当会の見解を発信する旨、提案された。
4. その他
 - ・関係各賞の選考基準の検討(現・規程添付)
 - 遺伝子治療研究奨励賞(タカラバイオ賞)改定：承認された。
 - 【対象】
 - 1. 応募締切の時点で会員歴1年以上のJSGT 正会員で、国内の公的研究機関に所属する研究者で研究活動に従事する者「常勤・非常勤は問わず」
 - *大学院生、学生、企業に所属する研究者は除く
 - 寄附講座・社会連携講座・共同研究講座などの研究者の取扱いが不明確です。
 - (企業から派遣されている研究者は別。)
 - 2. 申請時において45歳以下である者→現行どおり
 - 付記：施設に受入決まり(間接経費等)がある先は原則、施設での受入となります。但し、受入決まりは各施設でご確認ください。
 - 筆頭著者が就職してしまっている場合、奨励金はその研究を行った研究施設に入る。
- ・Official Journal の検討 がなされ、谷憲三朗総務担当理事が対応することに同意された。
- ・利益相反 (COI) : JSGT としての規定の検討 がなされ、谷憲三朗総務担当理事が担当される旨、同意された。
- ・事務局存続に向けた法人会員の招聘の『お願い』が なされた。
- ・日本遺伝子治療学会(JSGT)からの注意喚起
 - 「遺伝子治療を受ける患者さんならびにご家族の方々へ」
 - 2013年11月6日付けホームページ上へ公開。
 - 2014年4月4日付け：患者さんより問合せ1件あり。
 - 2014年4月8日付け：上記、日本遺伝子治療学会による回答、以降、現在に至る。
- *現時点までの問合せを理事へメール回覧する旨、金田理事長より JSGT 事務局へ申し入れがあった。
- ・遺伝子治療専門医もしくは専門技師制度などの導入の可能性について意見交換がされた。

・……………*……………*……………*……………*

会員数減少にあたり、事務局存続が極めて厳しくなっております。
理事の皆様より、法人会員を募っておりますのでご協力のほどお願い申し上げます。

JSGT 事務局・記録